

第27回 腫瘍病理セミナー 金沢女性がん研究者フォーラム (北信がんプロ FD 講演会)

15:05 ~ 15:30



炎症依存的な
胃発がんモデル
マウスを用いた研究

金沢大学がん進展制御研究所
助教 越前佳奈恵

16:00 ~ 17:30



病理組織検体のオミックス
解析に基づく
がんの個別化医療開発と
その実装

慶應義塾大学医学部病理学教室
教授 金井弥栄

15:30 ~ 15:55



子宮で発症する癌と
Pten の関係
~マウスモデルを
用いた解析~

金沢大学学際科学実験センター
教授 大黒多希子

本講演では、がん症例の病理診断に従事し、病理組織検体を収集してバイオバンクを構築し、エピゲノムを主体とする多層的オミックス解析をもとにデータ駆動型がん研究を行ってきた演者の経験を述べる。

質の高い病理組織検体を用いることが肝要であるので、日本病理学会が行ってきた、「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程」策定等手技の標準化の動きを紹介する。

さらに、ビバレント遺伝子の DNA メチル化異常は諸臓器の発がん早期に普遍的な事象で、胃・尿路等における発がんのフィールド効果の本態は DNA メチル化異常であり、肺腺がん等の多段階発生過程でドライバー変異の前後におこる DNA メチル化異常が臨床病理像を規定することを示す。腎細胞がん症例等では、DNA メチル化プロファイルに基づいて予後不良群を層別化し、多層のオミックス情報を統合してその治療標的候補を同定し得た。非アルコール性脂肪性肝炎からの肝発がんリスク診断等、DNA メチル化診断の実用化も望まれる。

最後に、データ駆動型研究成果の医療実装すなわちゲノム医療実現の急速な動きにあたり、クリニカルシーケンスから得る治療指針を最大にするための病理医の役割について展望したい。

● 主催：金沢医科大学病理学 I



日時：平成 29 年 11 月 21 日 (火) 15 時から
金沢医科大学 基礎研究棟 3 階大学院セミナー室
各大学・施設テレビ会議室

お問い合わせ：
金沢医大教学課
(大学院担当)
d-gakuin@kanazawa-med.ac.jp